

より良い地域社会を築くために考え・行動できる生徒の育成
～「暮らしを支える地方自治」を題材に～

南大隅町立根占中学校 教諭 大隣 佳甫

目 次

| | | |
|----------|-----------------------------------|----------|
| 1 | はじめに | 1 |
| 2 | 実践のテーマと単元についての考察 | 1 |
| 3 | テーマ設定の理由 | 1 |
| | (1) 社会的要請から | |
| | (2) 本校の教育目標と中社研の研究主題から | |
| | (3) 生徒の実態から | |
| 4 | 単元開発の重点 | 2 |
| 5 | 単元開発の実際 | 3 |
| | (1) 単元の指導目標 | |
| | (2) 単元の指導計画 | |
| | (3) 「単元開発の重点」の具現化 | |
| 6 | 実践の検証 | 8 |
| | (1) 生徒の感想やグルメ商品・方策から | |
| | (2) 単元終了後のアンケート結果から | |
| | (3) 基礎的・基本的な知識・技能の定着度評価から | |
| 7 | おわりに | 9 |

〔参考文献〕

- ・ 『社会科の授業デザイン』 澤井陽介 (2015) 東洋館出版社
- ・ 『「公民的資質」とは何か』 唐木清志 (2016) 東洋館出版社
- ・ 『中学校学習指導要領解説 社会編』 文部科学省 (2017)
- ・ 『小学校学習指導要領 社会科編』 文部科学省 (2017)
- ・ 『見方・考え方 社会科編』 澤井陽介・加藤寿朗 (2017) 東洋館出版社
- ・ 「次期学習指導要領を深く知る」『VIEW 2 1 (教育委員会版)』2017年度 Vol 1
ベネッセ教育総合研究所 (2017)
- ・ 『第 50 回九州中学校社会科教育研究大会鹿児島大会研究冊子』
鹿児島県中学校社会科教育研究会 (2018)

1 はじめに

筆者は今年度4月に南大隅町立根占中学校に赴任した。南大隅町についての知識が乏しい中、「西郷どん」で人気となった雄川の滝や本土最南端の佐多岬に代表されるすばらしい自然、生徒・保護者の温かい人柄に感動した。一方で、県内随一の高齢化率やそれに付随する産業衰退などの諸問題についても知ることとなった。また、鹿児島県中学校社会科教育研究会（以下、中社研）より、年1回の研究公開における授業提供者としての機会をいただいたこともあり、「南大隅町の魅力や課題について自分自身が学びながら、南大隅町でしかできない社会科授業をつくり上げたい」という思いを抱いた。

しかし、後述のアンケート結果のように、生徒たちの社会科に対する意欲は低く、ふるさとである南大隅町についてよく知らず、南大隅町をより良くしていきたいという意欲も低いことが分かった。南大隅町を教材として最大限生かしつつ、生徒が将来どのような場所で暮らすとしても、より良く社会参画していった欲しいという願いを込めて、「より良い地域社会を築くために考え・行動できる生徒の育成」というテーマを設定し、「くらしを支える地方自治」の単元開発に取り組んだ。

2 実践のテーマと単元についての考察

(1) 実践のテーマ

より良い地域社会を築くために考え・行動できる生徒の育成

(2) 単元についての考察

本単元は主として学習指導要領公民的分野における内容Cの(2)「民主政治と政治参加」のAの(エ) およびイについて取り扱う。「解説」によると、本単元において、「生徒が地方公共団体の政治の仕組みや住民の権利や義務について理解できるようにすること」、「身近な地方公共団体の政治について取り上げるとともに、住民の権利や義務に関連付けて扱うことにより、地域社会への関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育成することが大切である」とされている。そのためには、生徒の暮らす地域の実情を踏まえた単元を構成し、主体的・対話的で深い学びを積み重ねていくことが必要である。

本校が位置している南大隅町は、温暖な気候を生かしてパッションフルーツやアボカドなどのユニークな食材が栽培され、観光開発も進んでいる。その一方で、高齢化率は45%を越え県内最高水準であり、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると2045年の人口は約3600人（2010年比で-41.4%）であり、いかにして持続可能なまちづくりを行っていくかが喫緊の課題である。

3 テーマ設定の理由

(1) 社会的要請から

新学習指導要領では、子供たちがこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。また、「深い学び」を実現するために実社会との関わりをより一層意識した「社会に開かれた教育課程」という観点も重視されている。自分たちが住む地域社会の現状を分析し、より良い地域社会を築くために考え・行動できる生徒を育成することは、「主体的・対話的で深い学び」の実現と、「社会に開かれた教育課程」という2つの観点からみても必要かつ有用であると考えられる。

(2) 本校の教育目標と中社研の研究主題から

本校では、「確かな学力を身に付け、心豊かで、たくましい生徒を育成する」という学校教育目標のもと、学力向上や地域に根差したボランティア活動・生徒会活動の充実による自己肯定感の醸成などに総合的に取り組んでいる。学力向上に関しては、「主体的・対話的で深い学びを目指した授業の実現」を研修テーマに、道徳を含め全教科の授業改善を図るとともに、「何が分かったのか」ということを明確化

するプロセスを重視している。また、「よか問」を全校体制で積極的に活用しており、知っていること、学んだことを「発揮」する力の育成に重点的に取り組んでいる。生徒が、学習を通じて「分かったこと」を「発揮」しながら、「より良い地域社会を築くために自分には何ができるか」と自問自答しつつ学びを深めていくことで、本校が取り組んでいる学力向上にもつながると考えた。

中社研では、「地域と世界をつなぐ授業の創造～『深い学び』となる『主体的・対話的な学び』の可能性を探りながら～」という大きな研究主題のもと、地域素材を教材として深く追究し、主体的学び・対話的学びの場を工夫して、将来の主権者としての生徒を育成することを目指している。この研究主題と本実践のテーマも合致していると考えられる。

(3) 生徒の実態から

年度当初、生徒へ社会科に関するアンケート調査を行ったところ、8割以上の生徒が「社会科が嫌い／どちらかという嫌い」と答えた。また、南大隅町の政治や歴史、伝統、産業などについて知っていることを自由記述で述べる質問への回答が、ほぼ白紙か「分かりません」だった。さらに、「将来も南大隅町で暮らしていきたいですか？」という質問に対し、6割が「あまりそう思わない」、3割が「全くそう思わない」と答え、「南大隅町のために何か行動したいですか？」という質問に対しても4割が「あまりそう思わない」、3割が「全くそう思わない」と回答した。生徒たちが、南大隅町について詳しく知らず、地域社会をより良いものにしていこうという意欲も低いことが分かった。日本はもちろん、今後は世界各国でも少子高齢化の進展が予想され、グローバル化の波も絶えず押し寄せている。地域の課題や強みといった特色を客観的に把握した上で持続可能性を模索していくこと、まさに、「より良い地域社会を築くために考え・行動すること」は、生徒が将来南大隅町を離れ、様々な地域社会で生きる上でも必要だと考える。

4 単元開発の重点

どのようにすれば「より良い地域社会を築くために考え・行動できる生徒の育成」という実践テーマを達成できるのかという点について、本校職員はもちろん、南大隅町教育委員会や大隅教育事務所、中社研の研究部員、鹿児島女子短期大学児童教育学科の松崎准教授、県総合教育センターの尻無濱研究主事など多くの方々からの指導・助言を参考にさせていただいた。また、澤井（2015）や唐木（2016）、中社研の過去の実践例、教職員支援機構のホームページに公開されている実践例、熊本県相良村立相良中学校の「相良村の創生のための戦略プラン作成」の実践、愛媛大学教育学部附属中学校の「なぜ、松山市花園町の街路整備は着々と進められているのか」という学習課題を追究していく実践などを参考にしながら、単元開発の重点として、以下の5点を設定した。

【単元開発の重点】

- ① 学習課題と学習成果を発揮する場面の工夫
- ② 南大隅町の事例や身近な事例の積極的な活用
- ③ 外部人材の活用
- ④ 学び合い・練り上げの場の工夫
- ⑤ 学習の見通しと振り返りの充実

以上の5点に重点的に取り組むことで、「より良い地域社会を築くために考え・行動できる生徒の育成」が達成できるのではないかと仮説のもと、本実践に取り組んだ。

5 単元開発の実際

(1) 単元の指導目標

- ア 南大隅町をより良く活性化するために積極的に社会参画する態度を養う。
- イ パフォーマンス課題へ取り組む過程で、多面的・多角的に考察を深めさせる。
- ウ 地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利と義務について、南大隅町を主な題材として理解させる。

(2) 単元の指導計画 (①～⑤の番号は「単元開発の重点」の番号とリンクしている)

| 次 | 時 | 主な学習活動等 【具体的事例や内容】 | 評価規準 | | |
|-----|----------|---|--|--|--|
| | | | 知識・技能 | 思考力 判断力 表現力 | 主体的に学習 に取り組む 態度 |
| ② | 1次 1時 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 地方自治の理念や、地方分権について概要を理解する。 ○ 地域おこしや中高生の社会参画の具体的事例について知る。 【ゆるキャラ, JK課, やねだん, 地産地消商品開発コンテスト】 ○ 単元の学習課題を設定する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地方自治や地方分権の基本的な考え方を理解している。 | | |
| | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">より良い地域社会を築くためにはどのようなことが必要なのだろうか。</div> | | | |
| ⑤ | 1時 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分がイメージする「より良い南大隅町」について考える。 ○ 単元全体の見通しをもつ。 ○ 単元のパフォーマンス課題を設定する。 | | | |
| ① | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「食」を通して、様々な視点から南大隅町をより良い町にする方策を考えよう。</div> | | | |
| ②・③ | 2時 | <ul style="list-style-type: none"> ○ ゲストティーチャー（南大隅町役場企画課職員）の講話と質疑応答から、南大隅町の良さ・強みや、課題・弱み、地方創生の方針などについて概要をつかみ、単元への関心と課題意識を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・南大隅町の良さ・強みや課題・弱みを理解している。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・地方自治への関心を高め単元を通じて学習課題を追究しようとしている。 |
| ② | 3時 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 地方公共団体の組織や役割、南大隅町に関する地方分権の事例や町独自の政策について調べる。 【南端まちづくり, 給食費, 医療費制度など】 ○ 首長と地方議会の関係について南大隅町を例に理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地方自治や地方分権の基本的な考えや首長と地方議会それぞれの役割を理解している。 | | |
| | 4時 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 地方公共団体の財政とその課題について、旧根占町と旧佐多町の市町村合併や、南大隅町の財政支出資料をもとに理解する。 ○ ふるさと納税について、全国の市町村の代表例や南大隅町の例をもとに理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・財政についての資料を適切に読み取っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・財政上の課題について資料から考察し、自分の言葉で表現している。 | |
| | 5時 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 住民の直接請求権、住民投票など住民の権利が認められている一方で義務や責任も負っていることを理解する。 ○ 南大隅町のNPOやボランティアの事例をもとに、その重要性を理解する。 【地域協力隊, コミュニティハウス】 | <ul style="list-style-type: none"> ・住民の権利と義務について理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分がどのように地域社会と関わっていけばよいか考え、表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・住民自治の意義を理解し、社会参画への意識を高めている |

| | | | | | |
|-----|-------------------|--|--|---|--------------------------------------|
| ①・④ | 個人課題 + 6時 | ○ 個人・4人の班で、南大隅町の魅力を表したグルメ商品を構想し、発表する。 | | ・様々な視点から、南大隅町の良さ・強みを考察し、商品に表現している。 | ・南大隅町の良さ・強みを再認識し、社会参画への意欲を高めている。 |
| | 個人課題 + 7時・8時 (本時) | ○ パフォーマンス課題を確認する。 「食」を通して、様々な視点から南大隅町をより良い町にする方策を考えよう。 ○ 個人・4人の班で、前時に考えたグルメ商品を切り口に、「環境保全」、「住民向けイベント」、「ふるさと納税返礼品」、「観光PR」、「福祉政策」の5つの別々の視点からパフォーマンス課題に取り組み、発表する。 ○ 地方創生で必要な視点や構想の組み立て方についてゲストティーチャー(おおすみ観光未来会議※1職員)の話を聴く。 | ・地域の現状を相対的に分析し、様々な視点から自分に来ることを考え、社会参画していくことが大切であると理解している。 ・インターネットや広報誌などを適切に活用している。 | ・南大隅町の良さ・強みや課題・弱みを踏まえ、既習内容を生かしながら企画を考えている。 | ・パフォーマンス課題への取組を通じて、社会参画への意欲を高めている。 |
| | 9時 | ○ 前時をもとに、他班の企画について意見交換を行う。 ○ 各班の方策を必要に応じて修正し、役場企画課への提案としてまとめる。 | | ・他班の企画について、建設的に意見交換している。 | ・他班との交流をもとに、企画をより良いものにしていく。 |
| | 10時 | ○ 再度、自分がイメージする「より良い南大隅町」について考え、共有する。 ○ 今後、どのように地域社会に関わっていけばよいかを考える。 | ・地方自治や地方分権の理念と、地域の良さ・強みや課題・弱みを分析した上で、様々な視点から社会参画していくことが必要だということを理解している。 | ・自分がどのように地域社会と関わっていけばよいか多面的・多角的に考察し、表現している。 | ・より良い地域社会を築くため、積極的に社会参画する態度を身に付けている。 |

※1 「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として多様な関係者と協働しながら明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実行するための調整機能を備えた、「DMO」(※Destination Management Organization)と呼ばれる法人形態の大隅半島版。

(3) 「単元開発の重点」の具現化

① 学習課題と学習成果を発揮する場面の工夫

実践のテーマをより具体化するために、次のような単元を貫く学習課題を設定した。生徒が、単元終了時に自分なりの概念的な知識を獲得できるようにあえて抽象的な表現とした。

【単元を貫く学習課題】

より良い地域社会を築くためにはどのようなことが必要なのだろうか。

本実践の目標への到達度は、身に付けた知識や技能を統合しながら、どのように使いこなしているかという視点に立った質的な評価が必要となる。そのため、以下のようなパフォーマンス課題を設定した。

【単元のパフォーマンス課題】

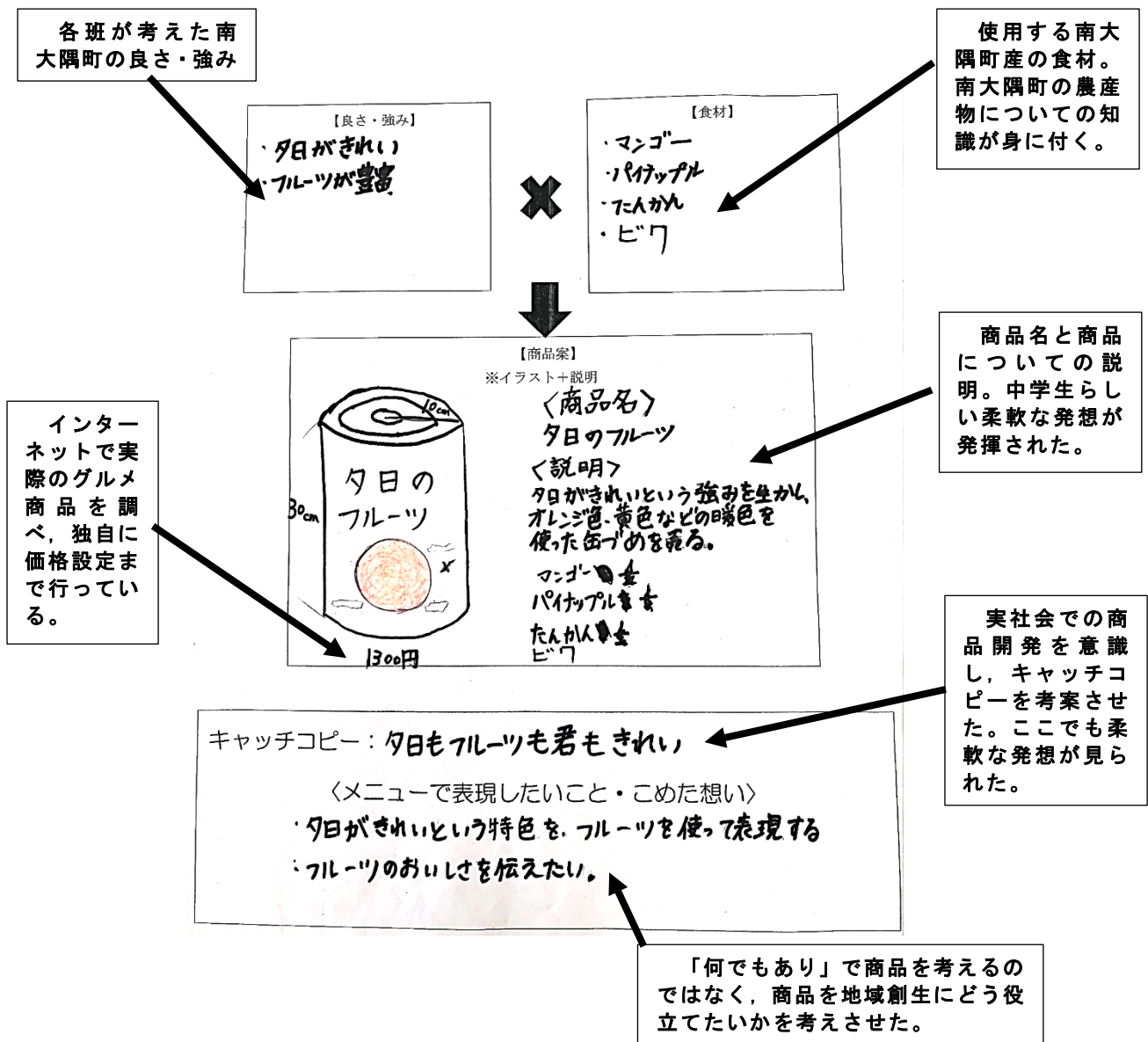
「食」を通して、様々な視点から南大隅町をより良い町にする方策を考えよう。

「食」に着目したのは、生徒の関心が高いことに加え、生徒同士、班同士のアイデアを比較・統合させやすく、中学生の柔軟な発想も生かされ、産業や環境保全など多種多様なテーマにもつなげられると考えたからである。

まず、第5時までの学習を踏まえて、個人で南大隅町産の食材を使い、南大隅町の魅力を表現したグルメ商品を考案させた。そして、教師が意図的に構成した4人の班（計5班）で1つのグルメ商品に絞り、練り上げを行わせた。こうして、「食」（グルメ商品）を介して全生徒の足並みを揃えた。

次に、各班が考案したグルメ商品をもとに、グルメ商品を生かして南大隅町をより良い町にするための具体的な方策（企画）を個人および各班で考案させた。いきなり方策を考えさせるだけでは、主体的・対話的な学びは成されないと考え、教師が意図的に「環境保全」、「住民向けイベント」、「ふるさと納税」、「観光PR」、「福祉政策」の5つの異なる視点から1つを与えた。5つの視点は、教科書記述に基づいて設定した。例えば、「ふるさと納税」という視点を与えられた班は、自班のグルメ商品を「ふるさと納税」の返礼品として販売できるレベルにまでどのようにブラッシュアップし、どのようにPRし、得た財源を使ってどのように地域創生を行うかといったことを総合的に企画させるということである。割り当ての際には、各班のグルメ商品と5つの視点の相性を考慮した。グルメ商品とそれを生かした方策の例は、以下の通りである。

【グルメ商品例「夕日のフルーツ」】



② 南大隅町の事例や身近な事例の積極的な活用

第1時では、鹿児島県産地消商品開発コンテストや、鹿屋市の「やねだん」などを紹介した。南大隅町の事例では、「給食費 1000 円」や各家庭の子どもの出生数に応じて給付金が支給される「子育て支援条例」、住民による「南端まちづくり運動」、町内の NPO 法人などを取り上げた。パンフレット、町報、県内各地のグルメ商品なども展示スペースを設けて活用した。

グルメ商品や町の情報の展示



③ 外部人材の活用

アンケート結果を踏まえ、導入段階で、南大隅町役場企画課の協力のもと特別授業をしていただいた。少子高齢化の現状や地域創生の取組について、生徒たちは「自分ごと」として捉え、意欲が高まったようだった。

第3次では、大隅地域の持続可能な観光地域づくりを推進している「株式会社おおすみ観光未来会議」にも協力をいただいた。グルメ商品立案や地域創生のプロとしてのアドバイスをしていただいた。特に、第8時では教師とともに机間指導をしていただき、生徒の発表をもとに企業活動やマーケティングで必須となる「SWOT分析」や「3C」、「4P」といった概念について、講話をしていただいた。

両者ともに生徒を尊重しつつ、授業と実社会をうまくつなぐ役割を果たしていただいた。

企画課の特別授業



ゲストティーチャーの講話



④ 学び合い・練り上げの場の工夫

ペア・グループ学習時の机間指導に加えて、主に以下の3点を工夫した。

1点目は、ワークシート類の工夫である。付箋を使ったブレインストーミングを取り入れるためのスペース確保や個別具体的事項→統合的・概念的事項と思考の深まりの流れに沿うような配置などを工夫した。第8時は「発表評価シート」を活用して、各班の発表に対してそれぞれの生徒が簡潔な評価と感想記入を行い、第9時には「発表評価シート」をもとにしながらジグソー形式で各班を交流させ、方策を更に洗練させた。

第8時の机間指導と練り上げの様子



第9時のジグソー学習



発表評価シート

【4】班

1 長さ・強み/課題・弱みを分析できているか
できていない ← 1 2 3 4 → よくできている

2 スローガンは魅力的か
魅力的でない ← 1 2 3 4 → 魅力的

3 企画の実現可能性はどうか
低い ← 1 2 3 4 → 高い

4 オリジナリティはどうか
低い ← 1 2 3 4 → 高い

5 総合評価
低い ← 1 2 3 4 → 高い

その他 感想・疑問・アドバイス等

害獣かみとれなかったときは、ラーメンかみ
作れなくてと思うか、それはどうするか。

分析の度合い、スローガンの魅力度、実現可能性、オリジナリティ、総合評価の5観点で4段階評価を行わせた。

イノシシなどの害獣被害に対し、ジビエ料理を振興し、益金で農地保全や環境美化を行うという方策に対し「食材がとれない場合はどうするのか」と投げかけている。

2点目は練り上げの視点の提示である。ワークシートの工夫と重なる部分もあるが、例えばモニターを使って右のように練り上げのポイントとして提示した。

3点目は、学び合い・練り上げのための「材料」の確保である。町報やパンフレット等の資料類に加え、第3次では常に各班に1台以上のタブレットPCを配布して授業を行った。昼休みや放課後もパソコン室を開放し、生徒がインターネット等を活用して、確かな「材料」を得た上で学び合い・練り上げに取り組めるようにした。

練り上げのポイント

- ① どのような人々に参加・協力してもらうか?
- ② どのような手段で企画をPRするか?
- ③ 企画の良さ・想いを凝縮したスローガンを考える

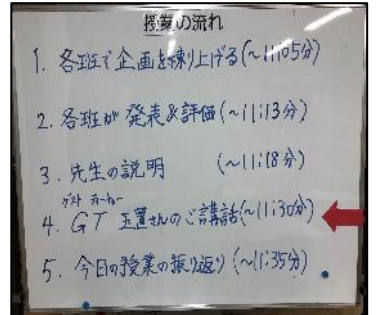
農業への害獣被害を調べ、ジビエ料理で地域創生を企画している生徒



タブレットPCを活用し、南大隅町の観光振興の現状を調べている班



「授業の流れ」の提示



⑤ 学習の見通しと振り返りの充実

本実践では単元全体の見通しをもたせ、単元の学習前と学習後の自分の考えを比較させることを目的とした「単元シート」と毎時の学習成果を積み上げ、認識の深まりを意識させることを目的とした「振り返りシート」の2種類のシートを活用した。また、1時間の授業の中でも、ホワイトボードやモニター上で右上のような「授業の流れ」を提示することで、生徒が見通しをもって授業に臨めるようにした。

6 実践の検証

(1) 生徒の感想やグルメ商品・方策から

生徒の感想を分析すると、全ての生徒が南大隅町をより良くするために自分にできることを考えていた。また、グルメ商品や方策を考えるという学習活動そのものにも充実感を感じていた。各班が考えたグルメ商品や方策は、前掲の例のように、客観的根拠をもとに、柔軟な発想を取り入れ、うまく練り上げられたものになっていた。今後は方策を実現するため、地域協力隊や商工会との連携を検討中である。

生徒の感想例

最初は自分たちが住んでいるこの南大隅町はそこまで明るくはないし、観光客も少なく良いイメージはありませんでした。けれど、この単元を通して、食のことに対してはいろいろ知識が増えました。果物が多く栽培されていることや、畜産が盛んなことが多く分かりました。その中で、地域のために私たちが出来ることとして、ドラゴンゼリーなど特産品を使ったお土産を考えられました。これから、地域に対して今までよりも関心を持って関わっていきたいし、大人になってふるさと納税などで南大隅町と関係を作りたいと思います。

- ・最初は南大隅町に対して良いイメージはなかった。
- ・今後は地域に対して関心を持ちたい。
- ・大人になってもふるさと納税などで南大隅町と関係を持ちたい。

最初はほとんど南大隅町に対してあまり良いイメージがありませんでした。マイナスポイントだけを見てネガティブに考えていました。だけど企画や商品を考えていく上でたくさん良さやまたちがた言葉も見てきました。その良さを今回は「食」という視点から生活化につなげました。その中でも各班がたえ見点で、いろいろな企画ができました。南大隅町もまだまだ捨てたもんじゃありません。たくさん良いところがあるのではないかと気がつくことができました。また、班で企画を考えていく中で、スローガンやキャッチコピーなどは、集めた意見から、みんなの前で発表は少しおもしろいことも、たまたま班の意見や良さなことをしっかり伝えることができたと思います。これからは生活でも必ず役に立つと思うので、そのときは今回のことをいきたいと思います。

- ・最初はマイナス面ばかり見ていた。
- ・南大隅町もまだまだ捨てたもんじゃありません。
- ・今後は地域に対して関心を持ちたい。
- ・難しいテーマだったがしっかりと考え、クラスに伝えることができた。

(2) 単元終了後のアンケート結果から

単元の学習後は、南大隅町の政治や歴史、伝統、産業などについて知っていることを自由記述で述べる質問に対し、全員が事実に基づく記述を行っていた。以下の結果からも、生徒の社会参画意欲は高まったといえる。

| 南大隅町のために何か行動したいですか？ | |
|---------------------|---|
| 学習前 | 「とてもそう思う」0%、「そう思う」30% 「あまりそう思わない」40%、「全くそう思わない」30% |
| 学習後 | 「とてもそう思う」26%、「そう思う」50% 「あまりそう思わない」24%、「全くそう思わない」0% |

(3) 基礎的・基本的な知識・技能の定着度評価から

本単元で身に付けるべき知識・技能の定着度は、教科書の評価問題等を活用して評価した。全体として通過率が高かったが、細かな部分で誤答が目立ち、指導不足を反省した上で補充指導を行った。用語については、掲示物の活用などをより一層工夫していきたい。

| 出題内容や用語 | 通過率と主な誤答例や誤答傾向 |
|-------------------|------------------|
| 選択：地方公共団体の仕事内容 | 85% 水道事業を認識していない |
| 用語：住民自治 | 45% 「地方自治」との混同 |
| 用語：民主主義の学校 | 35% 「憲法の番人」との誤答 |
| 記述：国庫支出金と地方交付税の違い | 50% 逆に理解している |
| 用語：NPO | 75% WHO GDP |
| 財政資料の読み取り | 80% 自主財源と依存財源の混同 |
| 自由記述：南大隅町の条例の例 | 100% |

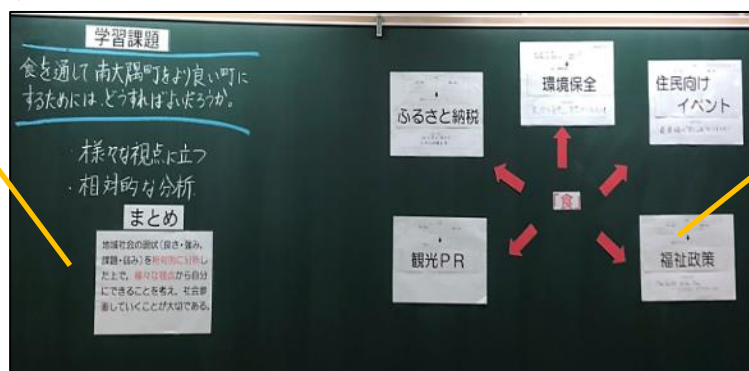
7 おわりに

本実践を通じて、私が生徒に伝えたかったことを端的に表現したのは、下に示す第8時(公開授業)の板書とまとめである。授業研究でも「コンテンツ」か「コンピテンシー」かが話題となったが、本実践は、「コンテンツ」と「コンピテンシー」を相互に結び付けながら、両者を相乗的に身に付けることを意図した実践である。そのために、生徒にとって身近な地域社会の事例や外部人材の知を学習課程の中にふんだんに取り入れた。外部との連絡調整や、事例の発掘など、かなり骨の折れる単元開発であったが、その分の手応えもあった。

「コンテンツ」の獲得を無視すると、「這い回る社会科」となってしまうことを肝に銘じながらも、知っていることを「どう発揮するか」が問われる時代だからこそ、教師が生徒に対し「どう発揮させるか」という認識が必須だろう。今後は、本実践で得た知見を生かし、単元を通して「生徒がこう育て欲しい」という到達目標を明確に設定しつつ、その達成に向けて、生徒に「何を学びとらせるか」、「どう発揮させるか」ということをうまくコーディネートするような単元開発をできればと思う。本単元も来年、再来年、その先、と地域と連携を深めながらグレードアップさせていきたい。

公開授業の機会をいただいたことや、赴任1年目という条件などさまざまな要因が重なって今回の実践に取り組むことができた。指導・助言や御協力をいただいた全ての方々に深く感謝し、今後も研鑽を積み重ねていきたい。

地域社会の現状(良さ・強み、課題・弱み)を相対的に分析した上で、様々な視点から、自分にできることを考え、社会参画していくことが大切である。



各班のワークシートを掲示した上で、「食」を核に「観光PR」や「福祉政策」など様々な視点から方策を考え得ることと、相互の視点に関連し合っていることを模式的に示した。